

平成28年度 第2回若草南小学校自己評価書

平成29年1月20日（金）作成

学校長：市川 利仁

記述者氏名：教頭 加賀美 敏

学校教育目標

「進んで学び、心豊かなたくましい子ども」

〔具体目標〕

- (1) 自ら学び、よく考える子ども (知)
- (2) 豊かな心で、思いやりのある子ども (徳)
- (3) 体をきたえ、最後までやりぬく子ども (体)

〔本年度指導重点〕

- 1 知・徳・体の調和を重視し、「生きる力」を育む適切な教育課程の編成と実施に努める。
 - (1) 基礎的・基本的な事項（知識・技能）の確実な定着を図る。
 - (2) 学習意欲や興味関心がもてるような、たのしく・分かる授業を創意工夫して実施する。
 - (3) 授業時数の確保に努めると同時に補充学習や発展学習等の指導も意図的に行う。
「確かな学力」の育成を図る。
- 2 心の教育の充実を図る。
 - (1) 児童理解を常に心がけ、児童との信頼関係の構築に努める。
 - (2) 道徳の時間の確保に努め道徳教育の充実を図る。
 - (3) 望ましい学級・学年集団づくりの積極的な推進。異年齢集団活動を推進し異学年同士の交流を深める。
- 3 健康で安全な生活を推進する。
 - (1) 教育活動全体を通じて体力・健康・安全・食に関する理解を深め、日常生活に生かすとともに、生涯を通じて体育・スポーツに親しみ、健やかで心身の調和のとれた児童の育成に努める。
 - (2) 早寝・早起き・朝ごはんなど基本的生活習慣の定着を図る。
 - (3) 何事に対しても最後までやりぬく強い意志を持った心身ともに健康な児童の育成を目指す。
- 4 特別支援教育の充実を図る。
 - (1) 特別支援教育校内委員会を開催し、対象児童の支援の在り方等共通理解をし、指導を進める。
 - (2) 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成しその活用を図り、一層の指導の充実に努める。
 - (3) 交流学級や在籍学級の担任、保護者、関係諸機関との連携を図り指導の充実に努める。
- 5 安全確保体制の確立と安全指導の充実を推進する。
 - (1) 学校安全管理体制の整備・登下校の安全確保・安全教育の充実を図る。
- 6 開かれた学校づくりを推進する。
 - (1) 家庭・地域との連携において具体的な取組を進める。

I 第2回児童アンケートの考察

1 全体的な傾向

全20の質問項目中、肯定的評価が90%以上のものが17項目あり（1項目前期より増えている）、残りの3項目も70%以上である。全体的に肯定的評価が前期よりも増えている。

2 ①前期と比較して良くなっている項目（+3%以上アップ）

〔項目1〕「わたしは学校へ行くことが楽しいです」（+5→95%）

〔項目4〕「わたしは、最近友達からいやがることを言われたり、いやがることをされたりしたことがあります。」（-3→93%）

〔項目7〕「わたしには、遊ぶ友だちがいます」（+3→98%）

〔項目8〕「わたしには、困った時に、相談に乗ってくれる友達がいます。」（+6→96%）

〔項目9〕「わたしは、授業がわかります。」（+6→96%）

〔項目11〕「わたしは、掃除や自分の仕事に、しっかり取り組んでいます。」（+3→98%）

②肯定的評価が99%以上の項目（上記①の項目を除いて）

〔項目16〕「先生は、わたしたちの意見や考えをよく聞いてくれます」（99%）

〔項目17〕「先生は、勉強でわからないところをわかるように、教えてくれます」（99%）

〔項目18〕「先生は、わたしが努力したことを、認めてくれます」（99%）

〔項目19〕「先生は、いじめやけんかでわたしたちが困っている時、きちんと対応してくれます」（99%）

〔項目20〕「先生は、やってよいこと・悪いことを、しっかりと教えてくれます」（100%）

3 課題として考えられる項目

〔項目15〕「わたしは、本をよく読みます。」（-5→76%）

〔考察と課題への取組〕

前期と比較してほとんどの項目で肯定的評価が増えている。理由として考えられることは、前期から引き続いて教職員が一人ひとりの児童を大切にした学級・学年づくりを進めてきたことと授業改善を行ってきた成果だと考えられる。また、前回の学校評価を基にした改善策の実施や校内研でアクティブラーニングの研究に取り組んできたので、授業中自分から進んで意見を発表する児童が少しずつ増えてきている。

そういった取組の成果が児童の満足度に表れているのだと思う。ただ、学校生活に不適應を示す児童もいるので、これからも一人ひとりを大切にした指導や授業を心がけていきたい。

課題は読書活動の充実である。前期も改善策（次頁参照）を各学年で出して取り組んできたが、まだ成果が出てきていない。読書は児童の知識や心を豊かにしたり、今の教育課題である読解力を育てていく基本になるので、改善策の継続的な実施と家庭との連携の中で読書活動の充実を図っていきたい。また、ケータイの保持率も131人から137人に増えている一方、ルールを決めている家庭が107人から99人に減っている。昨今のケータイに関わる問題を考えると、今年度PTAの学習会や防犯教室で実施したケータイ・スマホの安全な使い方の学習会を毎年実施すると共に保護者へも使い方について啓発していかなければならないと思う。

【読書活動の改善策】

- 読み聞かせをして、読書への関心意欲を高める。
- 友達同士や国語の授業での本の紹介。
- 朝読書の時間や図書館利用の時間を充実。
- 教科に関連した本の紹介や読み聞かせ。
- 国語の授業での並行読書。
- 家庭学習に図書の本読みや感想、音読をする。

II 第2回教職員自己評価の考察

1 全体的な傾向

後期の教職員自己評価の結果も、すべての質問項目において肯定的回答が多数を占め、学校長の指導の下、学校教育目標達成のために全職員が協力して努力していることがわかる。

2 プラス評価が多かった項目（A評価が19人以上のもの）

II 学校経営・組織について

- ③「教育公務員としての自覚を持ち、職務に従事している。」（A25・B2）

III 学習指導・児童指導について

- ①「基礎基本の定着や意欲的に取り組むための授業づくりの工夫を図っている。」（A19・B6）
③「宿題など、家庭学習に対する指導を行っている。」（A19・B6）
④「児童の規範意識をはぐくむための指導を行っている。」（A20・B5）
⑤「問題行動（いじめ・不登校等）の早期発見に心がけ、早期対応を行っている。」（A19・B6）

IV 安全管理

- ①「校舎内外の安全点検を計画的に実施することにより、危険箇所・修理箇所の対応ができていく。」（A19・B8）

3 課題として考えられる項目（前期よりも肯定的評価が下がっているもの）

II 学校経営・組織について

- ①「教職員の適性・能力に応じた校務分掌がなされ、意欲的に取り組める環境にある。」（A12→9）
⑤「学校行事は職員の共通理解の下に実施され、内容も適切である。」（A12→9）

〔考察と課題への取組〕

教職員からの意見には「チーム若南としてチームワークが昨年より向上した。」「行事への対応は見事な協力体制で行えていたので保護者の評価も高まったと思う。」「課題を抱えている児童への配慮が良くできていて、管理職・教務を中心にして協力して支援にあたっていると思う。」「職員がとても協力的で、職場がとても良い雰囲気だと感じている。」など全教職員が教育公務員という自覚を持ち、みんなで協力して職務に従事していることがわかる。

また、校内研究で児童の資質・能力を育成するための手立てとしてアクティブ・ラーニングに取り組み、児童の学びを『深い学び・対話的な学び・主体的な学び』にできるように努力し

たことによって、児童が意欲的に学習に取り組むようになってきたことは前記の児童アンケートの考察で述べたとおりであるし、教職員の意見にも「学びノートに取り組むことで学習に対する意欲、継続する力、学力が養われていると感じる」とある。家庭の協力のもとで児童の学習に取り組む姿勢や習慣が高まりつつある。来年度は市指定研究の本公開になるので、尚一層研修に取り組んでいきたい。

安全点検を定期的に行い、修繕箇所はなるべく早く対応して児童が安全に学校生活を送れるように努力している。本校も開校から17年経ち周りの樹木も伸び始めたり、建物にも経年劣化の部分が始めたりしている。市教委にも尽力していただいて高木の剪定や施設の改修をしていただいているが、これからも市教委の支援のもと若草南小がきれいで使いやすい施設になるように日々の管理をしっかりとしていきたい。

課題は、教職員の多忙化である。新学習指導要領が実施になると英語科などで時数が増えるので、教育課程の見直しや行事の精選をしていかなければならない。実際、来年度に向けて日程表の見直しや行事内容・取組の精選にも取り組んでいる。児童と教職員が向き合う時間を確保するためにも、教育課程の見直しはこれからの大きな課題である。また、本校には市単講師が2名配置されていて、きめ細かな教育指導ができています。配置して下さっている市教委には大変感謝すると共にこれからの継続もお願いしたい。外国語活動では教育ボランティアに協力していただいているが、他の教科でも協力いただけるように教育ボランティアの拡充に取り組んでいきたい。

Ⅲ 保護者アンケートの考察

1 全体的な傾向

全19の質問項目中、肯定的評価が90%以上のものが14項目あり、残りの5項目も80%以上である。全体的に肯定的評価が前年度よりも増えている。

2 前年度と比較して良くなっている項目（+3%以上アップ）

〔項目Ⅰ-3〕「学校から出される「学校だより・学年だより・学級だより」等で、学校の様子や方針がよくわかる。（+5→98%）

〔項目Ⅰ-4〕「先生は、基礎・基本の徹底を図る取り組みや学習のつまずきなどに積極的に取り組んでくれている」（+7→98%）

〔項目Ⅰ-5〕「先生は、保護者からの相談や要望に適切に対応している」（+5→98%）

〔項目Ⅰ-6〕「先生は、子どもの話をよく聞き、よく理解してくれている」（+5→97%）

〔項目Ⅱ-1〕「子どもは、学校に行くのを楽しみにしている」（+4→96%）

〔項目Ⅱ-2〕「子どもは、家でも地域でもきちんとあいさつをしている」（+6→91%）

〔項目Ⅱ-5〕「子どもは、学習がわかり、基礎学力が身についている」（+3→89%）

〔項目Ⅲ-2〕「授業参観や学校行事には積極的に参加している」（+3→93%）

〔項目Ⅲ-5〕「子どもがゲームをする時間やテレビを見る時間やケータイの使い方などについて、ルールを決めて指導している」（+7→85%）

3 前年度と比較して肯定的評価が下がっている項目

〔項目Ⅱ-4〕「子どもは、学校のことをよく話す」（-1→89%）

[考察と課題への取組]

児童アンケートの評価も高いことからわかるように、多くの児童が満足して学校生活を送っている。そのことが保護者アンケートの高評価にもつながっていると思う。

具体的なアンケート項目を見ても、教職員に関することでは、「学校の様子をお便りでよく伝えている」、「学習に熱心に取り組んでいる」、「保護者や子どもの話を良く聞いている」と教職員の努力を評価している。また、児童に関することでも「学校に行くのを楽しみにしている」、「家でも地域でもきちんとあいさつをしている」、「学習がわかり、基礎学力が身についている」と児童の良さを評価している。

保護者も児童や学校のことに関心を持ち、忙しい中ではあるが学校行事に積極的に参加する家庭が増えてきている。

課題としては、「子どもは学校のことを良く話す」の項目が1%前年度より下がっていることがあげられる。大変わずかな減少だが、これは保護者が仕事で忙しくて児童と話ができなかったり、児童もいろいろな習い事があつたりして家族と一緒にいる時間が持てないのかもしれない。また、高学年になると思春期に入って児童から以前のように学校のことを話さなくなるのも原因かもしれない。どの家庭も忙しく中々家族の時間が持てないかもしれないが、家庭学習を見てあげたり、児童に家庭の仕事を分担させたりするなど、ちょっとした時間でコミュニケーションを取っていくことは、今後の児童の成長の面で大切だと思われる。

ケータイの使い方に関してのルール決めは前年度より7%増えているが、児童アンケートの結果では、ルールを決めている児童が少しだが減っていて、ケータイの保持率は上がっているので、児童アンケートの考察でも述べたが、保護者がきちんとケータイ・スマホの危険性をしっかり認知しておくことがとても大切になる。安易に児童にケータイを与えると、保護者が知らない所で児童が事件に巻き込まれる可能性があるので、学習会への保護者の更なる参加をこれからも呼びかけていきたい。

IV 今後の課題【重点目標】

①校内研究を中心にした研修の充実と授業改善

- ・一人ひとりの児童を大切にした学級・学年経営
- ・アクティブラーニングを活用した授業づくり
- ・カリキュラム・マネジメントに基づく教育課程の見直し

(学校教育全体でどんな子に育てるのかという目標を持って教科等を横断的に見渡して教育内容を決めていく)

②家庭や地域と連携する中での安心安全な学校づくり

- ・安全教育の更なる充実と安全管理の徹底（自分の命は自分で守る）
- ・見守りたすきの普及・拡大
- ・PTAによる自主的な登校班の編成と朝の登校指導
- ・地域と協力しての防災のしくみづくり（避難所運営の分担・マニュアル作り）